

# 園長だより NO.87

数日でめろんぐみ(5歳児)の巣立つ日が訪れます。

言葉も流ちょうになり、大人との会話も同等、時には大人の私たちが「あれや これや」とご意見を頂戴することもある。

いつのまにか大人に意見できるほど成長した子ども達です。

やわらかいふっくらした赤ちゃんの手がいつのまにか大きく、時にはたくましさを感じるように変化してきました。その手でいろいろなものを創造的に作り出すことができるようになるとは実に感慨深いものです。

あつという間の5、6年間でした。

「手のかかる子ではなく」可愛さのあまり、子ども達のやりたいことを実現させてあげたいという思いがかかわる大人に「手をかけてあげたい」と思わせる。

子どもらしさの強く出ていたクラスです。

手をかけてあげたいとは何事にも口をはさみ、取り組んでいる活動にあれこれと手を出すことはありません。

子ども達を中心にすえて、自分たちが考えたこと、感じたことを仲間の中で出し、それぞれが他者を感じながらいろいろと取り組み、挑戦できるようにいつでも手をかせる準備をしていることです。子ども達で解決できないところはさりげなく援助する。



「ふねづくり」

## 思いやり (人が育つ土壌)

2023. 3. 29

子ども達の興味関心の向かう方向を感じて十分(とことん)取り組めるような環境を作れるようしておく。

どれだけの時間が必要かな? どんなものが必要かな? 仲間同士のつまづきはあるかな? ... 今後の遊びの発展、広がりはどうかな? ...

目の前にいる子ども達の姿をみて、感じて実際に対話するなかで子ども達の満足できる内容を子ども達と共につくりだしたいと願ってきました。

## もうすぐ小学校 自分を忘れないで

昭和真っ只中に生きてきた私にとって、小学校はいつも「申し分(ぶん)ない子」を求めている学業成績が良く、宿題をやり、整理整頓ができ、忘れ物もしない、仲間との協調性もある。そして、なによりも先生の言うことをきく子どもが「申し分(ぶん)ない子」とされていた。私は「申し分(ぶん)ない子」ではなく、母親からすれば「申しわけない子」であった。成績は悪い、宿題はやらない、授業中は落ち着きがない、その当時「申し分ない子」と言われた優等生はいたずらをしたり、反抗したり、喧嘩をしたり、仲間とふざけ合って授業を中断させることはない。そんな行為の中に実は子どもらしさが隠れている。

私を含めた悪ガキたちは子どもらしく自発性を育てていた。大人の描くような子どもに

なるように型にはめられた子たちは自由を知らなかったのだろう。

5年生のとき新任の先生が担任になり2年間受けもってもらった。

「申しわけない子」が輝き始めた。授業をちゃかしてもみんなでわらって、時を過ごす、クラスの棚(主に担任の教材棚)には漫画がずらりと並んでいた。「いいよ」と先生が言うから、子ども達は自発的に家庭から持参し漫画の貸し借りを管理した。ドカベン、ベルサイユのばら、エースをねらえ、がきデカ等々 学級文庫と言われていたものの大半は漫画であった。

先生はいろいろと子ども達に企画させてくれた、お楽しみ会などは日常よくやっていた。情報交換、情報発信も子ども達自らの手で壁新聞をつくりはり出していた。なぜか成績不良の私が新聞づくりの中心にいた。所詮、小学生がつくる新聞は内容も薄い子ども達を知りたい、やりたいことが常にのっていた。絵心のない私が4コマ漫画を担当していたことも覚えている。げらげらと笑い転げながら作成していた記憶もある。へたくそな漫画のイラスト天才バカボンやまことちゃんなどを描き、みんなにうけていた。私だけでなく、くすぶっていた子がいきいきとしていた。

自分を忘れてはいけない。

どこかで日差しがあたる。

担任の先生には思いやりが人一倍あった。子どもの立場に立って考え、子どもの気持ちをくみ取れることができる、子どもを叱ることなどない、叱る気にもならないのだろう。そんな担任の先生だから子ども達もそれなりの秩序を保ち「自由」に行動できた。

楽しいから毎日、学校に行きたいと思う。自分の感情を素直に出せるようになる。感情表現が担任や仲間を受け入れてもらえる経験があるから他人を受容しようと心も豊かになる、友達とのかかわりが持てれば、自然と仲良しになり次から次へと遊びの中で発想が湧き出てくる。

そんな時代に生きてきたことが私の現在に繋がる。

常に子どもを真ん中において子どもの生活を考えられる大人でいたいと思っている。

大人の都合で子ども達を動かすことは嫌いである。保育者が教え込むのではなく、常に一緒に学ぶスタイルを尊重したい、保育者が教え導くことも保育の中にはあるが5歳児にもなれば「わかっている子にきく、教えてもらうことで聞き手はより真剣に理解しようとする。わかっている子は、教えることでより理解が深まる。」

今も昔もみんなで共に学び、育っていくことが大切と思っている。

めろん組さん 卒園おめでとう

たくさんの学びをありがとう

(おおぞら保育園 園長廣部信隆)

